

2025年（令和七年）

7月18日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（7月10日～16日）の国際石油市場は、ウクライナ停戦に向けた対ロシア経済制裁、トランプ関税の強度、IEA・OPECの需要予測、米国の需要見通し等を巡って、やや軟化気味に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、7月10日、反落の66.57ドル、11日反発の68.45ドル、週明け14日からは3日続落し、16日66.38ドルで終わった。

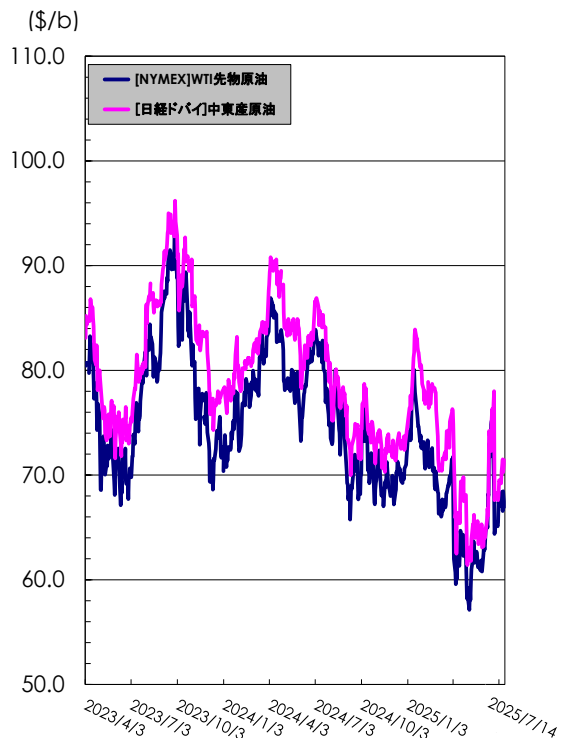
また、中東産バイ原油/東京市場（9月渡し）も、前週（7月3日～9日）は69.20～70.90ドルの範囲で推移したが、当週は、7月10日71.50ドル、11日70.30ドル、14日71.40ドル、15日70.10ドル、16日70.10ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（7月3日～9日）143.64～146.89円の範囲で推移したが、当週は、7月10日145.89円、11日146.66円、14日147.02円、15日147.69円、16日149.05円だった。

そのような中で、7月14日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.4円安、軽油も同0.4円安、灯油は同2円安

（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は173.2円だった。7月17日～23日、燃料油補助金の支給額は、予想金額が176.3円となったため、「予防的な激変緩和措置」が実施され、ガソリン・軽油の場合11.3円（前週比1.3円増）、灯油・重油の場合5.6円（同0.6円増）となった。

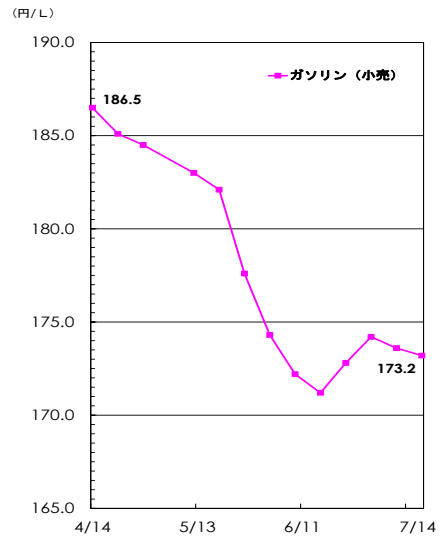
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/6 ~ 7/12	2,316 ▼ -41	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	66.9 ▼ -1.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/12	12,216 ▲ 82	▲ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	7/14	71.40 ▲ 2.20	▼ -12.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/14	66.98 ▼ -0.95	▼ -14.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月中旬	69.89 ▼ -0.80	▼ -18.05
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	63,121 ▼ -993	▼ -23,507
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	143.58 ▲ 0.61	▲ 13.04
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/14	148.02 ▼ -2.61	▲ 11.43



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	7/12	1,629	▼ -15	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/8 ~ 7/14	78.0	➡ 0.0	▼ -4.8
		(TOCOM/中部) 7/14	78.0	➡ 0.0	▼ -3.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/14	173.2	▼ -0.4	▼ -2.7

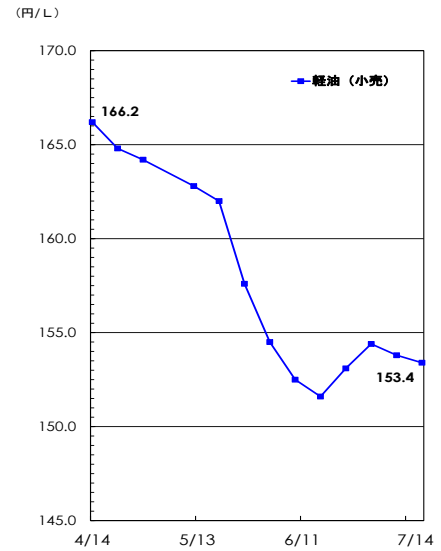
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

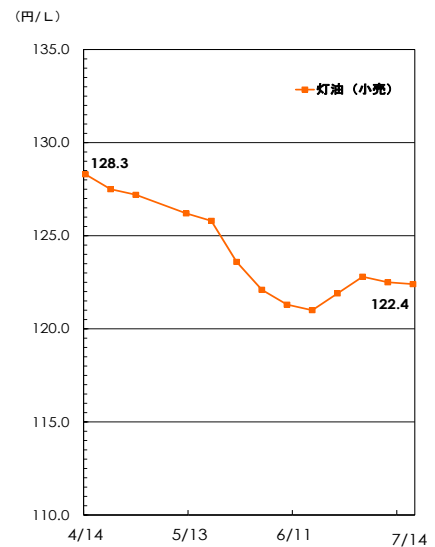
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	7/12	1,527	▼ -131	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/8 ~ 7/14	81.3	▼ -0.1	▼ -4.2
		(TOCOM/中部) 7/14	-	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/14	153.4	▼ -0.4	▼ -2.2

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	7/12	2,208	▲ 129	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/8 ~ 7/14	81.0	➡ 0.0	▼ -1.5
		(TOCOM/中部) 7/14	82.0	➡ 0.0	➡ 0.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 7/14	122.4	▼ -0.1	▲ 4.8



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（7月3日～9日）のNYMEX・WTI先物市場は、67.00～68.38ドルの範囲で推移した。

当週7月10日は、前日に米国がブラジル等8カ国への相互関税50%賦課を発表、世界経済後退懸念が再発し、4営業日ぶりに反落した。また、対ユーロのドル高進行も、原油先物に対する割高感を生じ、下落要因となった。8月物終値は前日比1.81ドル安の66.57ドル。

週末11日は、国際エネルギー機関が、短期的には、夏の需要期などの要因で予想外に需給が安定したとする報告を発表、また、ロシアのノバク副首相が、ロシアは過去の超過生産分の減産を8・9月実施すると発表、さらに、トランプ大統領が週明けロシアに対する重大声明を発表すると予告、対露経済制裁強化観測が浮上、反発した。前日安値の安値拾いの買いも出た模様。8月物終値は1.88ドル高の68.45ドル。

週明け14日は、米国のウクライナ戦争停戦に向けた対露経済制裁強化策が発表されたが、50日間の交渉猶予を付けるなど予想より厳しくなかったとして、ロシア産原油の供給懸念は後退、反落した。前日高値の利食い売りもあった模様。8月物終値は前営業日比1.47ドル安の66.98ドル。

15日は、中国当局が本年第2四半期の実質経済成長率を5.2%と発表、前年同期を下回ったことから、中国の成長懸念が拡大、また、引き続き、対ロ経済制裁への緊張緩和も続き、続落した。為替の対ユーロのドル高による割高感もあった。OPEC月報は、2025年・26年の石油需要前年比伸びを各130万BD増で前月予想に据え置き、大きな影響はなかった。8月物終値は同0.46ドル安の66.52ドル。

16日は、米国の原油在庫は前週比取り崩されたものの、ドライブシーズン入りにもかかわらず、ガソリン等石油製品は積み増しとなったことで、今後の需給緩和感が生まれ、続落した。ただ、前日のOPEC月報で、今夏の石油需要は好調の見通しもあり、底値は固かった。8月物終値は0.14ドル安の66.38ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、7月16日発表の11日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比390万バレル減と市場予想（60万バレル減）を上回るに取り崩しとなったものの、ガソリン在庫は同340万バレル増・中間留分在庫は同80万バレル増と、いずれも市場予想（各100万バレル減・20万バレル減）に反する積み増しで、ドライブシーズンを迎えた米国の今後の石油需要に懸念が生じた。

EIAによると、7月14日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.5セント高の1ガロン3.130ドル（122.2円/ℓ）と3週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.9セント高の1ガロン3.758ドル（146.8円/ℓ）と2週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、7月11日時点で、米国内の

稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基減の424基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年07月06日～07月12日に休止したトッパー能力は66.9万バレル/日で、前週に対して8.3万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は231.6万klと、前週に比べ4.1万kl減少。前年に対しては26.5万klの増加。トッパー稼働率は66.9%と前週に対して1.2ポイントの減少、前年に対しては7.6ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

7月12日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油、C重油で取り崩しとなり、灯油、A重油は積み増しとなった。

ガソリンは162.9万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては0.9万kl多い。

灯油は220.8万kl、前週差12.9万kl増。前年に対しては54.5万kl多い。

軽油は152.7万kl、前週差13.1万kl減。前年に対しては19.9万kl多い。

A重油は75万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては4.2万kl多い。

C重油は161.4万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては6.4万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (7/12)	前週 (7/5)	前週比	
ガソリン	1,629	1,644	▼ -15	(-1%)
ジェット燃料	813	926	▼ -113	(-12%)
灯油	2,208	2,079	▲ 129	(6%)
軽油	1,527	1,658	▼ -131	(-8%)
A重油	750	729	▲ 21	(3%)
C重油	1,614	1,635	▼ -21	(-1%)
合 計	8,541	8,671	▼ -130	(-1.5%)

5 国内/元売会社製品卸価格

7月8日～14日のドル建て中東原油価格は前週比値上りし、為替レートも円安が進み、元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。ただ、7/17からの補助金は、原油価格上昇・円安進行に伴い予防的激変緩和が追加措置され、定額補助金と併せ、前週比1.3円増の11.3円(揮発油・軽油の場合。灯油・重油は5.6円)となったが、補助金込みの実質卸価格も値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

7月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安の173.2円、軽油も同0.4円安の153.4円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同2円安の2,203円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでも0.1円安の122.4円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが14都県、横ばいが3府県、値下がりは30道府県だった。全国最安値は愛知県の166.3、その次は兵庫県、167.2円であった。他方、最高値は鹿児島県の183.6円。最も値上がりしたのは東京都と愛媛県(同0.6円高)、最も値下がりしたのは佐賀県(同2.4円安)だった。

次回調査時(7/22)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/14)	前週 (7/7)	前週比	直近高値
レギュラー	173.2	173.6	▼ -0.4	2023/9/4 2025/4/14
灯油	122.4	122.5	▼ -0.1	08/8/11
軽油	153.4	153.8	▼ -0.4	08/8/4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第16号)の公表は、7/25(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。